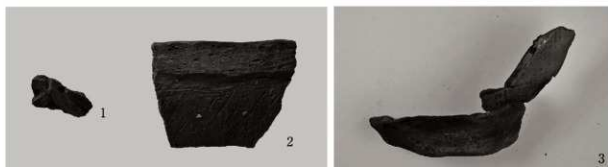
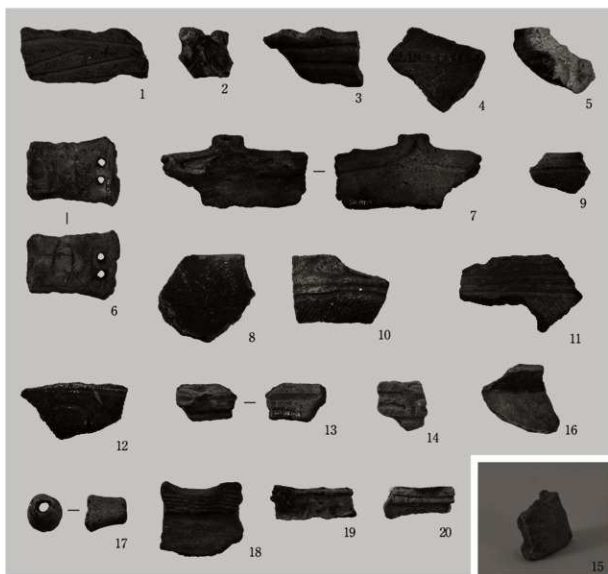




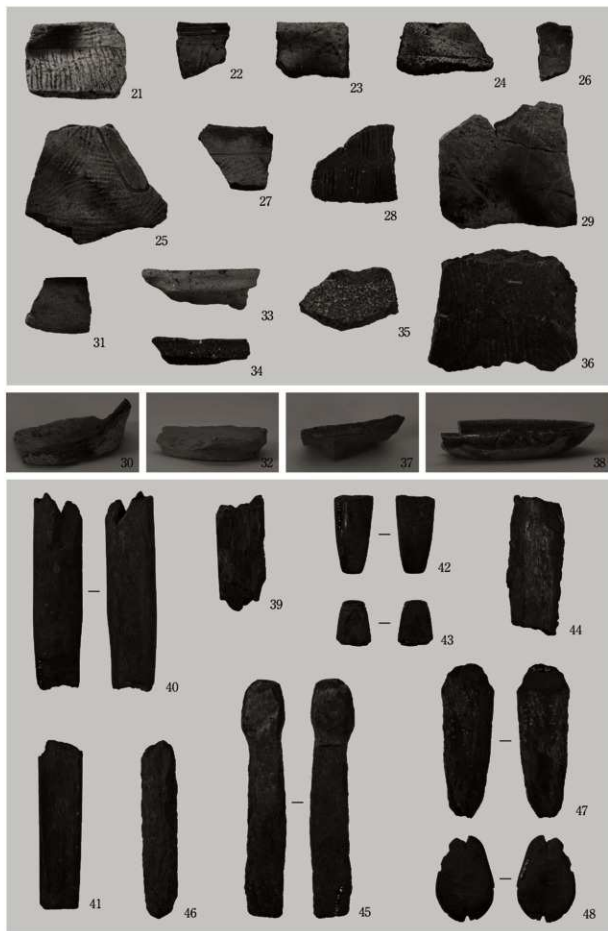
S K 65出土遺物 (2)



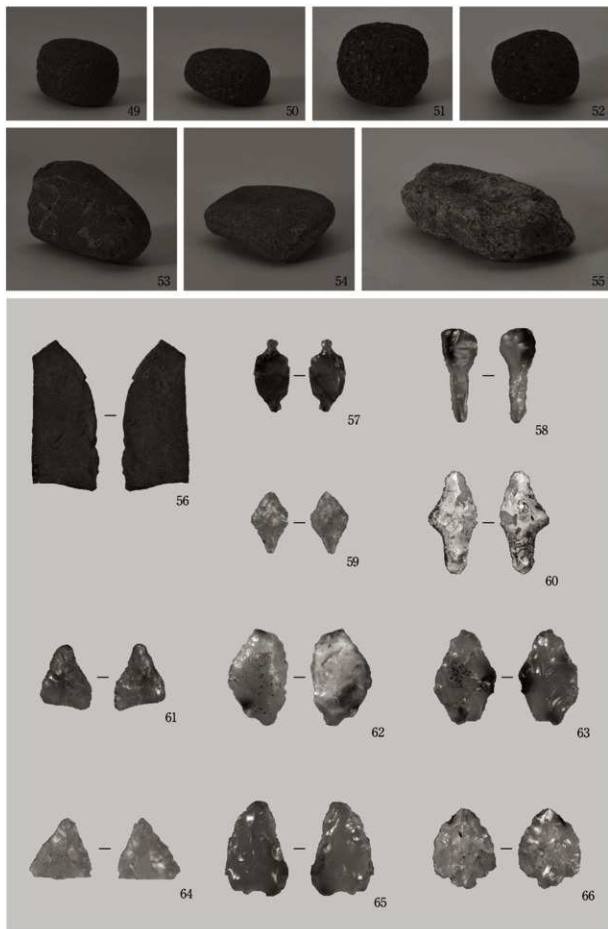
S K 75出土遺物



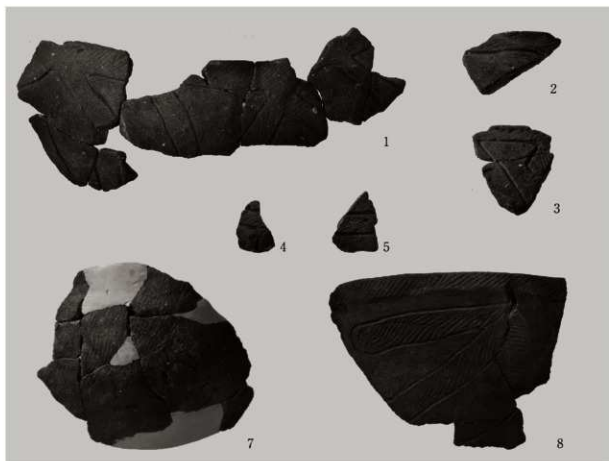
第13トレンチ遺構外出土遺物 (1)



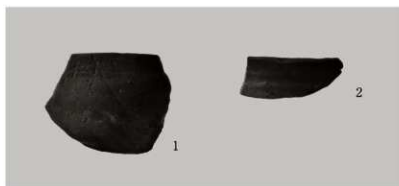
第13トレンチ遺構外出土遺物（2）



第13トレンチ遺構外出土遺物（3）



SK67出土遺物



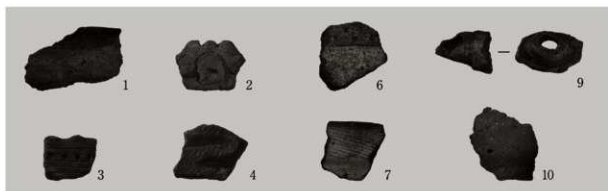
SI14出土遺物(1)



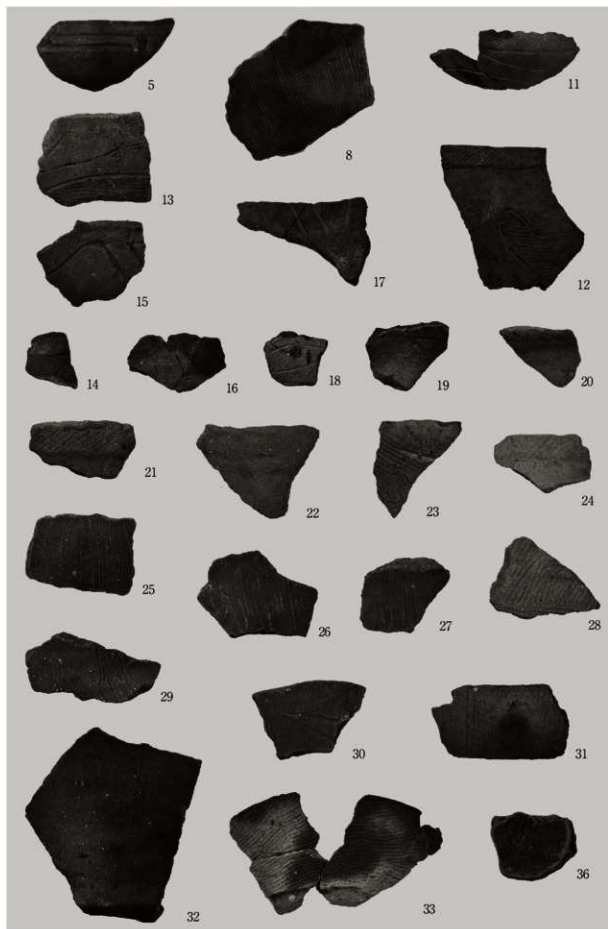
S I 14出土遺物 (2)



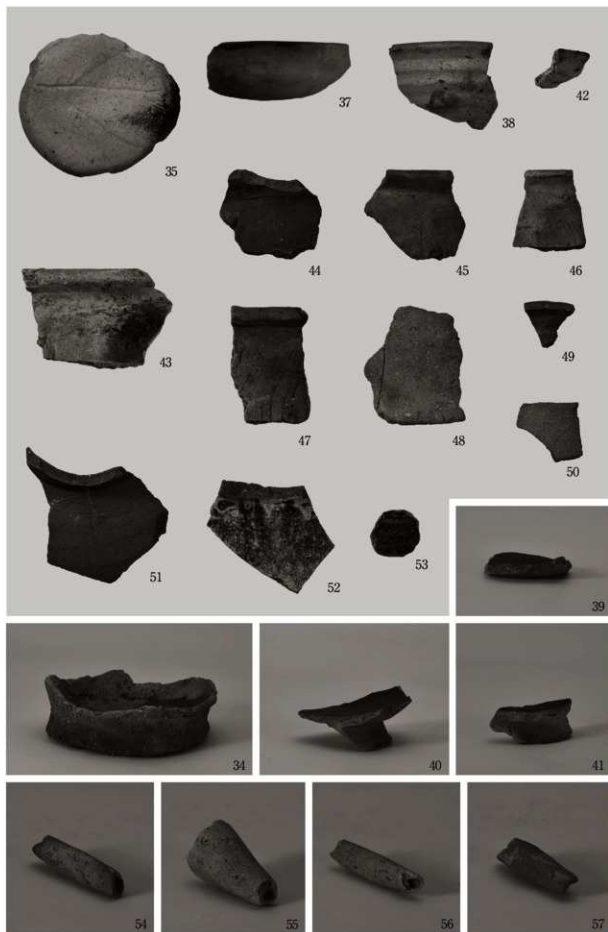
S I 15出土遺物



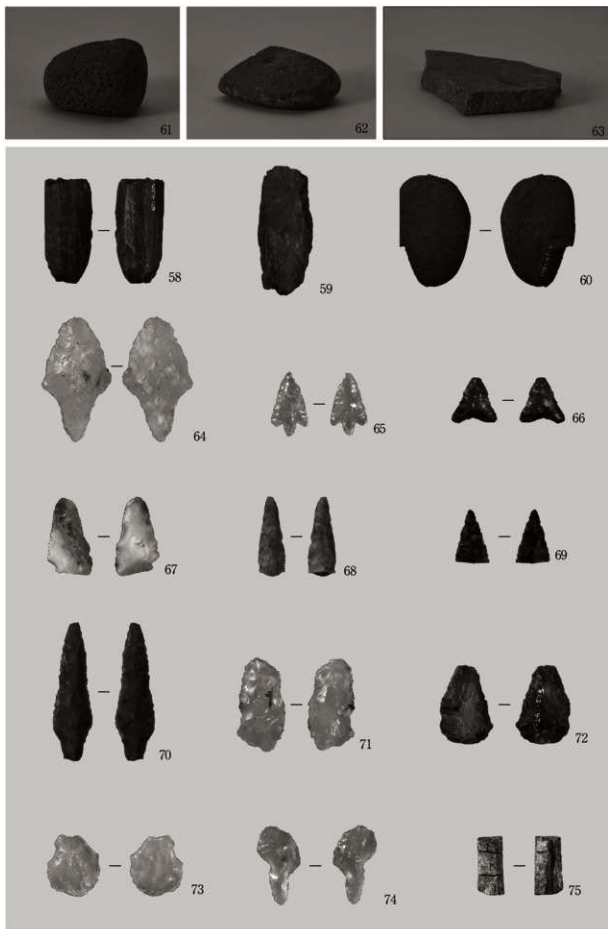
第14トレンチ遺構外出土遺物 (1)



第14トレンチ遺構外出土遺物（2）



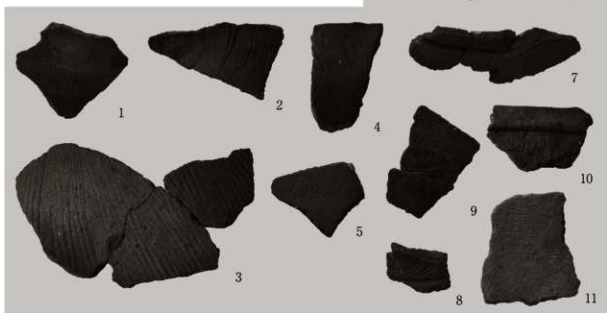
第14トレンチ遺構外出土遺物 (3)



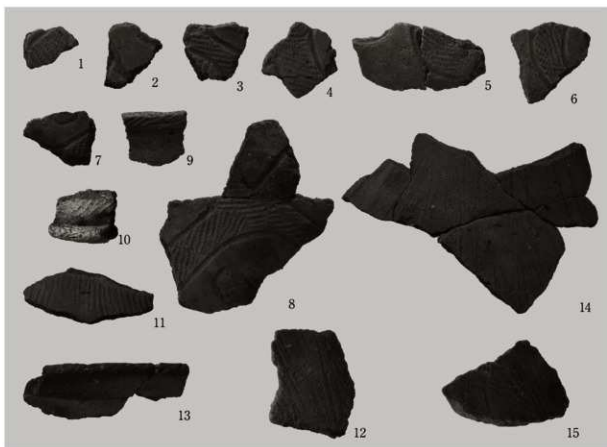
第14トレンチ遺構外出土遺物（4）



S K 59出土遺物



S K 60出土遺物



S K 61出土遺物



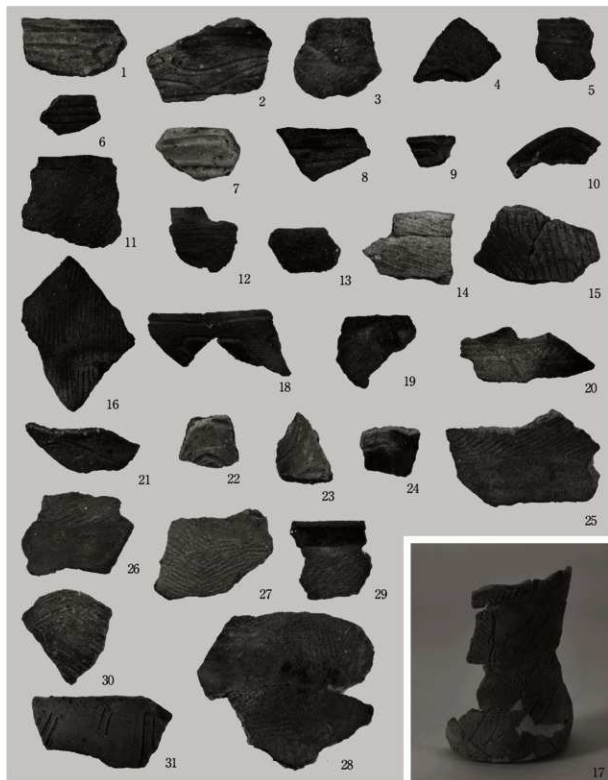
S K 84出土遺物



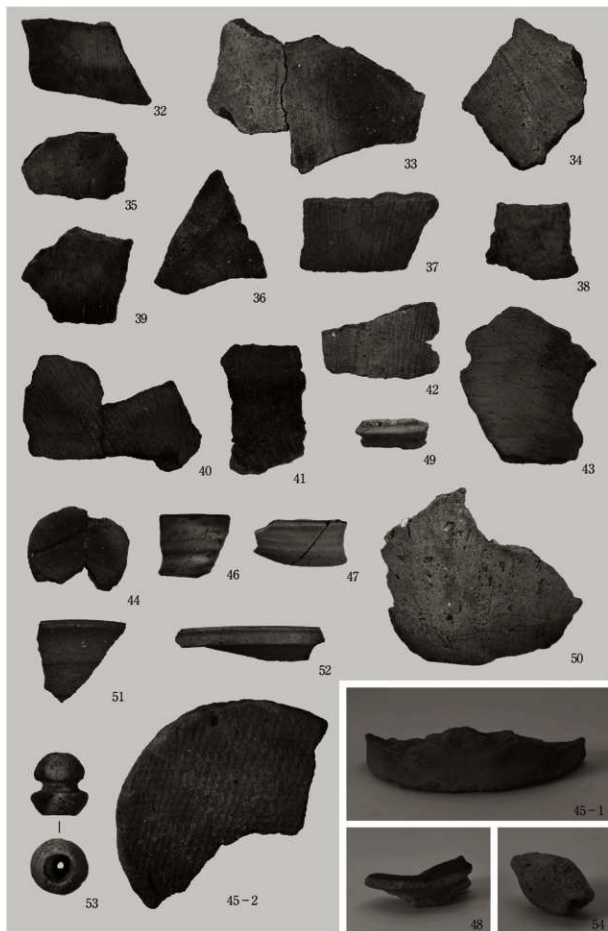
S I 17出土遺物



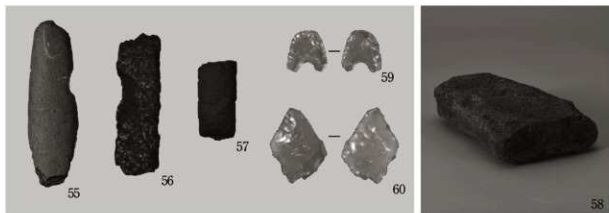
S I 18出土遺物



第15トレンチ遺構外出土遺物 (1)



第15トレンチ遺構外出土遺物（2）



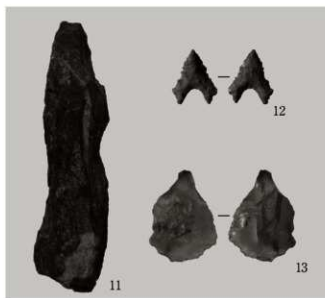
第15トレンチ遺構外出土遺物 (3)



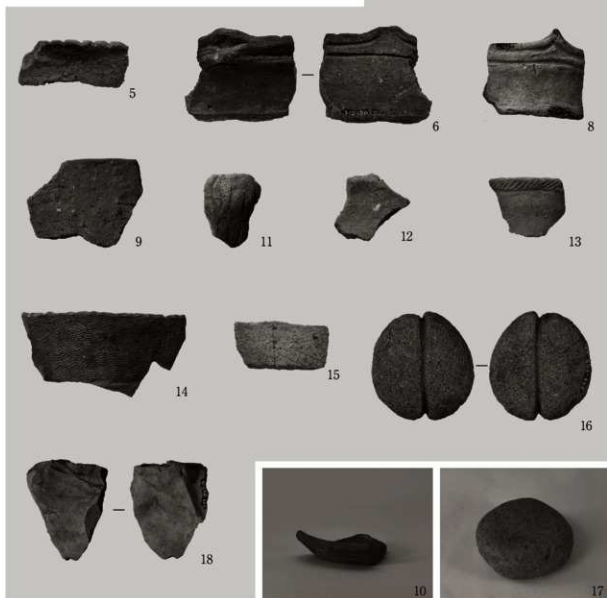
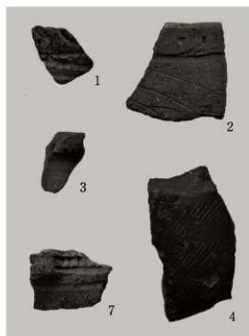
S K 81出土遺物



S K 83出土遺物 (1)



SK83出土遺物 (2)



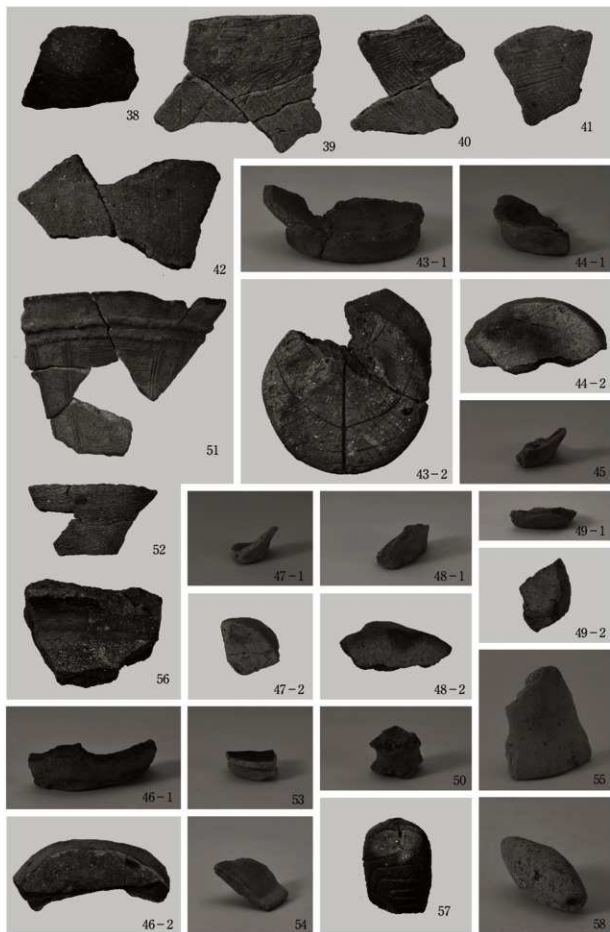
SD9出土遺物



S D11出土遺物



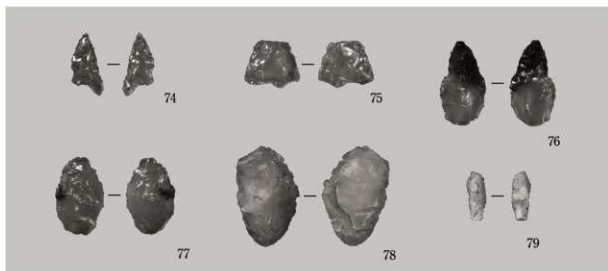
第18トレンチ遺構外出土遺物 (1)



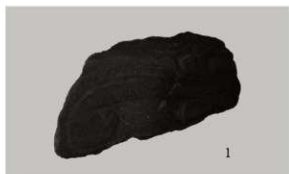
第18トレンチ遺構外出土遺物（2）



第18トレンチ遺構外出土遺物（3）



第18トレンチ遺構外出土遺物（4）



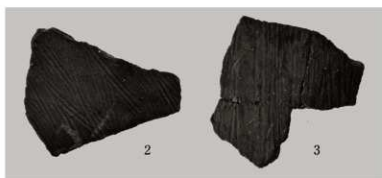
S I 11出土遺物



S I 16出土遺物

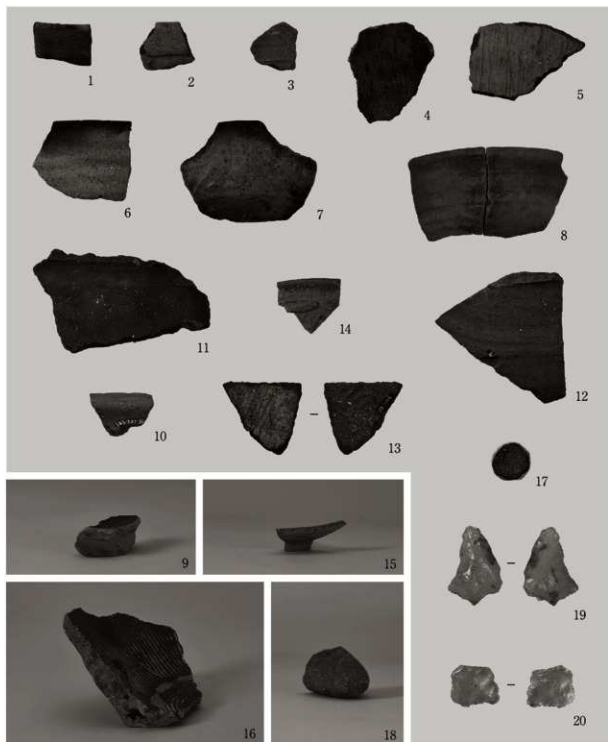


S D 7出土遺物

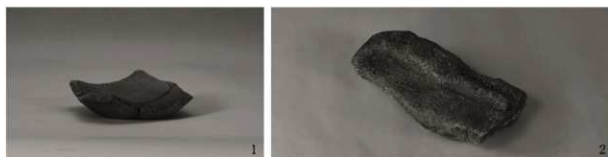


S E 1出土遺物





第23トレンチ遺構外出土遺物



表面採集遺物

報告書抄録

ふりがな	いずみさかしたいせき さん							
書名	泉坂下遺跡Ⅲ							
副書名	保存整備事業に伴う第2次確認調査報告							
巻次								
シリーズ名	茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第21集							
編著者名	後藤 俊一, 萩野谷 悟, 中林 香澄							
編集機関	常陸大宮市教育委員会							
所在地	〒319-2292 茨城県常陸大宮市中富町3135番地の6							
発行機関	常陸大宮市教育委員会							
所在地	〒319-2292 茨城県常陸大宮市中富町3135番地の6							
発行年月日	平成26年(西暦2014年)7月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				m ²	
泉坂下遺跡	常陸大宮市泉坂下 918番地 外21筆	08225	大034	36° 32' 1"	140° 26' 5"	20130801 ～ 20131011	7,697	保存整備事業に伴う 第2次確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
泉坂下遺跡	墓跡 集落跡	縄文時代	竪穴住居跡4軒	縄文土器(鉢、小型鉢、台付鉢、深鉢、浅鉢、小型浅鉢、壺、広口壺、注口土器、皿、ミニチュア土器)、土製品(土器片円盤、土鍋、耳栓)、石器・石製品(石剣、石棒、石刀、敲石、石鏃、凹石、磨石、石錘、台石、砥石、石皿、勾玉、垂飾)		第12トレンチで、晩期集落の所在が確認できた。付近には後・晩期の遺物が高密度で分布する。 特殊な遺物として、古代サメ歯化石が出土しており、類別から垂飾と考えられる。		
		弥生時代	再葬墓3基 土器棺墓3基 土坑1基 溝跡1条	弥生土器(壺、小型壺、鉢、小型鉢、筒形土器)		第1次調査で性格不明としていた遺構が、溝跡であることが確認できた。 再葬墓・土器棺墓が新たに確認された。これらの分布はさらに広がるものと考えられる。		
		平安時代	竪穴住居跡6軒	土器器(坏、高台付坏、碗、高台付皿、甕、小型壺)、須恵器(甕、大甕、壺)、灰釉陶器(高台付坏、皿)、土製品(管状土錘)、古銭(皇宋通寶)		第1次調査同様、竪穴住居跡が低位段丘全域に広く分布していることが確認された。		
		中世	墓墳9基 溝跡3条 井戸跡1基	青磁(碗)		第1次調査同様、墓墳が広く分布しているほか、区画溝も確認された。		
		近世	掘立柱建物跡1棟 土坑1基	陶器(皿)、瓦質土器(火鉢)、石製品(石臼)		17世紀の所産と考えられる掘立柱建物跡と土坑が確認された。		
		不明	土坑30基 溝跡4条 性格不明遺構2基					
要約	縄文・弥生・平安・中世・近世と、幅広い時代にわたる遺跡が所在していることが確認された。中でも、第12トレンチで縄文晩期の集落が確認されたことは特筆すべき点である。また、新たな再葬墓・土器棺墓が確認され、分布域はさらなる広がりを見せた。第1次調査で性格不明としていた遺構が、弥生の溝跡と確認された。							

本書は長期保存を考慮し、すべて中性紙を使用している。

【紙質】

表紙	レザック66白	215kg
見返し	上質紙	70.5kg
巻頭写真	マットコート	90kg
本扉・ごあいさつ・例言・目次・本文・付図	書籍用紙クリーム	70kg
写真図版・抄録・奥付	マットコート	90kg

【印刷】

写真図版以外はオフセット印刷（黒）

写真図版はダブルトーン印刷（スミ+セピア）スクリーン線数200線

茨城県常陸大宮市埋蔵文化財発掘調査報告書第21集

泉坂下遺跡Ⅲ

保存整備事業に伴う第2次確認調査報告

発行日 平成26年(2014)7月31日

著者 後藤 俊一、萩野谷 悟、中林 香澄

編集・発行 常陸大宮市教育委員会

所在地 茨城県常陸大宮市中富町3135番地の6

電話番号 0295-52-1111

印刷 山三印刷株式会社